

交通遺族の叫び

生きていればこそ

——交通事故を起こさないために——



交通遺族の叫び
生きていればこそ
交通事故を起こさないために

■制作意図■

多発する交通事故。飲酒、速度超過、脇見など原因はさまざま。またちょっとした気の緩みから起こした事故から悪質なまでの状況も異なる。

しかし、事故の形態がどのようなものであれ、遺された家族にとって悲しみは計り知れず、ドライバーの責任の重さに変わりはない。

このビデオは、飲酒運転・脇見運転・ひき逃げにより、愛する家族を失った交通遺族の方々への取材を通して、すべてのドライバーに命の大切さを心に留め、安全運転に徹するよう訴えるものである。

■映画の内容■

■飲酒運転で夫(学さん)、息子(陣さん)を失った遺族・武笠涙美子さん

事故は休日の午後、家族でドライブの途中に起きた。対向車が突然右折するような形で学さんの車と正面衝突した。夫、学さんは37歳で、息子の陣くんは僅か2歳で亡くなった。妻、涙美子さんと次女、愛さんは重症。長女の望さんは軽傷だったが、事故の一部始終を見ていたことで深い心の傷を負った。加害者のドライバーと助手席の女性は前日から飲酒し、車中では飲んでいたと供述。

涙美子さんはプロのドライバーだったが、事故以来ハンドルを握っていない。遺された家族に、笑顔を取り戻せる日は来るのだろうか。武笠涙美子さんは「飲酒運転は殺人行為だ。絶対にしてはならない」と訴える。

■高速道路トンネル内で追突事故により両親を失った遺族・前田幸代さん

事故は高速道路のトンネルの中で起きた。幸代さんの父、勝海さんの運転する乗用車が故障、ハザードランプを点灯させ、停止表示器材を置きに車外に出ている所に、後方から4トントラックがノーブレーキで追突した。勝海さんは即死。後部座席にいた母、チツコさんはその夜息を引き取った。事故原因は、トラックドライバーの脇見運転だった。しかも後の鑑定で、追突時の速度は約120キロと制限速度を40キロもオーバーしていたことが判明。

このドライバーは日頃から効率よく運搬するために、無謀な運転を繰り返していた。前田幸代さんは「車は人を殺傷できる凶器にもなる。常に慎重な運転を心掛けてほしい」と訴える。

■横断歩道で大型ダンプカーにひき逃げされ、愛娘を失った遺族・大野隆義、玲子夫妻

いつものように妹と二人で元気に家後にした小学5年の睦実さん。その僅か数分後、信号機のある交差点を青信号で横断していたとき、悲劇は起きた。一時停止せず左折してきた10トンダンプカーが睦実さんを轢き、そのまま逃走。走り去ったダンプカーを後続の乗用車が追跡し、現場まで引き戻した。

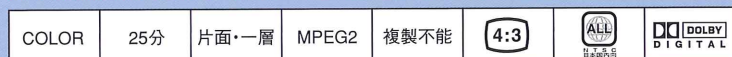
加害ドライバーは裁判の中で「人を轢いたことに気付かなかったことによろしくと思って逃げた」と供述した。妹の積里さんは事故の一部始終を目撃したショックからPTSDの診断を受けた。大野さんは「時間が経てば経つほど悲しみは増す。無念な思いで命を奪われる人を無くしてほしい」と訴える。

■遺された家族にとって、ちょっとした気の緩みで起こした事故も悪質な事故も、家族を失った悲しみには変わりはない。

車を運転する者は誰もが、加害者にも、被害者にもなり得るのだ。ハンドルを握るときは「明日は我が身」と考え慎重な運転を心掛けなければならない。



※字幕版を視聴される方は、メニュー画面より選択してください。



DVDビデオは映像と音声を高密度に記録したディスクです。DVDビデオ対応のプレーヤーで再生して下さい。

★著作権に関するご注意 このディスクを無断で複製、改変、放送、有料上映することは著作権法で禁止されています。

企画・制作：新生映画株式会社 〒150-0042 東京都渋谷区宇田川町6-20 パラシオン渋谷403 SEDV-117 MADE IN JAPAN

SEDV-117

企画・制作 ■ 新生映画株式会社

